

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月9日

【四半期会計期間】 第31期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 レック株式会社

【英訳名】 LEC, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 青木光男

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋浜町三丁目15番1号

【電話番号】 03 5847 0600

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 増田英生

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋浜町三丁目15番1号

【電話番号】 03 5847 0600

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 増田英生

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第30期 第2四半期 連結累計期間		第31期 第2四半期 連結累計期間		第30期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(百万円)		12,557		12,382		24,853
経常利益	(百万円)		991		494		1,655
四半期(当期)純利益	(百万円)		615		220		874
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		767		216		1,039
純資産額	(百万円)		19,195		20,564		20,517
総資産額	(百万円)		25,958		28,801		28,465
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		83.69		25.91		112.81
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		73.9		71.2		71.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		760		2,013		788
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		880		1,297		2,310
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		906		118		3,835
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		2,521		6,411		5,570

回次		第30期 第2四半期 連結会計期間		第31期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		35.63		9.13

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
- 3 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景として緩やかに回復しつつあるものの、欧州政府債務危機問題・新興国経済の成長率鈍化及びそれを背景とした海外景気の下振れリスクや円高の長期化等から、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当グループの属する日用品業界におきましては、厳しい景況感を背景に節約志向や価格訴求によるデフレ状況が続いており、また天候要因等により季節用品の販売が低調であったことや昨年の大震災後に増加してありました節電対策品等に対する需要が一巡したこと等、経営環境は厳しい状況で推移いたしました。

このような環境の中、当グループでは、当業界のリーディングメーカーとして競合他社を圧倒する新製品提案及びそれらの拡販により更なるシェアの獲得・販路の拡大を図るとともに、引き続き内製化を推進し製品供給体制の強化や商材の拡充等に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は123億82百万円(前年同期比1.4%減)となり、営業利益は6億28百万円(前年同期比46.1%減)、デリバティブ評価損を計上したこと等から経常利益は4億94百万円(前年同期比50.1%減)、四半期純利益は2億20百万円(前年同期比64.2%減)となりました。

当グループの事業は、「日用雑貨衣料品事業」の単一セグメントであるため、セグメントごとの業績の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ3億36百万円増加し、288億1百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ2億34百万円減少し、173億89百万円となりました。主な増加は、現金及び預金の増加8億41百万円、固定資産からの振替による有価証券の増加2億2百万円であり、主な減少は、受取手形及び売掛金の減少5億90百万円、商品及び製品の減少3億25百万円、前渡金の減少等によるその他の減少2億98百万円であります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ5億70百万円増加し、114億11百万円となりました。これは主に、物流倉庫の建設等による有形固定資産の増加5億86百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ2億89百万円増加し、82億36百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ64百万円増加し、26億84百万円となりました。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億24百万円増加し、55億52百万円となりました。主な増加は、長期借入金の増加4億78百万円であり、主な減少は、社債の減少2億26百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ46百万円増加し、205億64百万円となりました。

自己資本比率につきましては、上記要因により前連結会計年度末に比べ0.7%低下し71.2%となっております。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ8億41百万円増加し、64億11百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により増加した資金は対前年同期比27億73百万円増の20億13百万円となりました。これは主に、売上債権の減少額5億92百万円、減価償却費5億40百万円、税金等調整前四半期純利益4億88百万円、たな卸資産の減少額3億95百万円及びデリバティブ評価損1億62百万円等による増加と、法人税等の支払額2億24百万円等による減少であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は対前年同期比4億16百万円減の12億97百万円となりました。これは主に、有価証券の売却及び償還による収入1億円等による増加と、有形固定資産の取得による支出9億77百万円、投資有価証券の取得による支出4億76百万円等による減少であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により増加した資金は対前年同期比7億88百万円減の1億18百万円となりました。これは主に、長期借入れによる収入5億円による増加と、社債の償還による支出2億26百万円及び配当金の支払額1億69百万円等による減少であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。

当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではなく、株式会社の支配権の移転を伴う買付提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的、態様等から見て企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社の企業価値の源泉としては、「商品企画開発力」があり多くの知的所有権を保有しておりますが、当社株式の買付を行う者がこれら当社の企業価値の源泉を理解し、これらの中長期的に確保し、向上させられるものでなければ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることとなります。このような濫用的な買収に対しては、当社は必要かつ相当な抵抗をすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

具体的な取組み

当社は、平成18年5月2日開催の取締役会決議にて、「当社株式等の大規模買付行為に関する対応方針」を導入し、その後、平成21年6月26日開催の第27回定時株主総会においてその内容を一部変更の上、継続してまいりましたが、平成24年6月開催の定時株主総会終結の時をもって有効期間が満了することから、企業価値の向上、株主共同の利益の保護といった観点から、延長の是非も含めそのあり方について検討した結果、平成24年6月28日開催の第30回定時株主総会において「当社株式等の大規模買付行為に関する対応方針」（以下、「本プラン」という。）の継続を決定しております。

本プランは、当社株式等に対する大規模買付行為が行われる場合に、当社取締役会が、大規模買付行為を行おうとする者または大規模買付行為の提案を行う者（以下、併せて「大規模買付者等」という。）に対して、当該大規模買付者等及び大規模買付行為に関する情報の提供を求め、第三者委員会による勧告等を最大限尊重して、当該大規模買付行為について評価・検討し、大規模買付者等との買付条件に関する交渉や株主の皆様への代替案等の提示を行い、一定の場合には対抗措置を発動するための手続きであります。

本プランは、当社が発行する株式等について、(a)保有者及びその共同保有者の株式等保有割合が20%以上となる買付、または(b)公開買付後の公開買付者の株式等所有割合及びその特別関係者の株式等所有割合の合計が20%以上となる公開買付を対象としております。また、大規模買付者等に対し、事前に大規模買付者等の概要、買付目的、経営方針等に関する必要かつ十分な情報及び本プランに定められた手続きを遵守する旨の誓約を明示した書面等を当社取締役会に提出することを求め、当社取締役会が必要かつ十分な情報を入手後、当該大規模買付行為に対する評価・検討等を適切に行うための一定の期間を設定（以下、「取締役会評価期間」という。）し、取締役会評価期間終了日までに当社取締役会としての意見を公表するものとしております。なお、大規模買付者等は、取締役会評価期間が経過した後においてのみ大規模買付行為を開始することができるものとしております。

本プランの手続きが遵守されない場合には、当社取締役会は、当社の企業価値及び株主共同の利益を守ることを目的として新株予約権の発行等の対抗措置を講じる可能性があることといたしました。また、大規模買付行為に対して当社取締役会が発動する対抗措置の合理性・公正性を担保するため第三者委員会を設置しております。

具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

本プランは、前記 記載のとおり、その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされ、かつ、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、いずれも基本方針に沿うものであります。

なお、本プランにおいては、当社取締役会の恣意的な判断によって対抗措置が発動されることを防止するため、対抗措置を発動する場合には必ず第三者委員会の判断を経ることが定められており、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当グループの研究開発費の総額は3億23百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,891,340
計	28,891,340

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,541,335	9,541,335	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。
計	8,541,335	9,541,335		

(注) 平成24年10月18日を払込期日とする第三者割当増資により発行済株式総数が1,000,000株増加しております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日		8,541		4,972		6,430

(注) 平成24年10月18日を払込期日とする第三者割当増資により、発行済株式総数が1,000,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ519百万円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	598	7.00
青木光男	東京都中央区	541	6.33
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	432	5.06
高林 滋	静岡県周智郡森町	402	4.70
渡邊 憲一	静岡県藤枝市	402	4.70
レック従業員持株会	静岡県榛原郡吉田町川尻3308	221	2.59
株式会社静岡銀行 (常任代理人日本マスタートラス ト信託銀行株式会社)	静岡県静岡市葵区呉服町1-10 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	200	2.34
青木 勇	兵庫県宝塚市	190	2.22
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	160	1.87
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行 株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都品川区東品川2丁目3番14号)	147	1.72
計		3,295	38.58

(注) 野村證券株式会社及びその共同保有者から平成24年9月24日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書(変更報告書)により、平成24年9月14日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	45	0.53
野村アセットマネジメント株 式会社	東京都中央区日本橋一丁目12番1号	550	6.44

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,498,500	84,985	
単元未満株式	普通株式 2,035		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	8,541,335		
総株主の議決権		84,985	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式48株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) レック株式会社	東京都中央区日本橋浜町 三丁目15番1号	40,800		40,800	0.47
計		40,800		40,800	0.47

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,861	6,702
受取手形及び売掛金	4,037	3,446
有価証券	100	302
商品及び製品	5,017	4,692
仕掛品	203	277
原材料及び貯蔵品	838	701
その他	1,569	1,270
貸倒引当金	3	3
流動資産合計	17,624	17,389
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,925	2,853
その他(純額)	4,541	5,200
有形固定資産合計	7,466	8,053
無形固定資産		
のれん	167	119
その他	176	174
無形固定資産合計	344	294
投資その他の資産		
投資有価証券	2,424	2,438
その他	641	661
貸倒引当金	35	35
投資その他の資産合計	3,030	3,064
固定資産合計	10,841	11,411
資産合計	28,465	28,801

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	515	447
短期借入金	82	119
未払法人税等	261	233
賞与引当金	284	327
その他	1,476	1,557
流動負債合計	2,620	2,684
固定負債		
社債	712	486
長期借入金	3,714	4,193
退職給付引当金	343	336
役員退職慰労引当金	317	331
資産除去債務	35	35
負ののれん	190	152
その他	14	17
固定負債合計	5,327	5,552
負債合計	7,947	8,236
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,972	4,972
資本剰余金	6,590	6,590
利益剰余金	9,103	9,153
自己株式	226	226
株主資本合計	20,439	20,489
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	267	212
繰延ヘッジ損益	6	0
為替換算調整勘定	241	189
その他の包括利益累計額合計	18	23
少数株主持分	59	51
純資産合計	20,517	20,564
負債純資産合計	28,465	28,801

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	12,557	12,382
売上原価	7,616	7,865
売上総利益	4,941	4,517
販売費及び一般管理費	1 3,774	1 3,888
営業利益	1,166	628
営業外収益		
受取利息	6	7
受取配当金	12	14
負ののれん償却額	43	38
助成金収入	25	-
その他	18	38
営業外収益合計	105	98
営業外費用		
支払利息	10	26
デリバティブ評価損	262	162
為替差損	3	30
支払保証料	3	2
その他	0	11
営業外費用合計	280	232
経常利益	991	494
特別利益		
投資有価証券売却益	-	12
特別利益合計	-	12
特別損失		
固定資産除却損	5	2
投資有価証券評価損	2	14
会員権評価損	1	1
特別損失合計	9	19
税金等調整前四半期純利益	981	488
法人税、住民税及び事業税	378	196
法人税等調整額	11	78
法人税等合計	366	275
少数株主損益調整前四半期純利益	615	213
少数株主損失()	-	7
四半期純利益	615	220

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	615	213
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	202	55
繰延ヘッジ損益	55	6
為替換算調整勘定	5	52
その他の包括利益合計	152	3
四半期包括利益	767	216
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	767	225
少数株主に係る四半期包括利益	-	8

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	981	488
減価償却費	419	540
のれん償却額	78	47
負ののれん償却額	43	38
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	0
賞与引当金の増減額（は減少）	69	43
退職給付引当金の増減額（は減少）	8	6
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	10	14
受取利息及び受取配当金	19	21
支払利息	10	26
為替差損益（は益）	8	9
デリバティブ評価損益（は益）	262	162
売上債権の増減額（は増加）	694	592
たな卸資産の増減額（は増加）	1,433	395
その他の流動資産の増減額（は増加）	265	183
仕入債務の増減額（は減少）	246	71
その他の流動負債の増減額（は減少）	83	146
その他	13	17
小計	277	2,235
利息及び配当金の受取額	17	21
利息の支払額	10	23
法人税等の支払額	489	224
その他	-	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	760	2,013
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	227	227
定期預金の払戻による収入	227	227
有価証券の売却及び償還による収入	500	100
有形固定資産の取得による支出	1,276	977
無形固定資産の取得による支出	34	43
投資有価証券の取得による支出	0	476
投資有価証券の売却及び償還による収入	-	83
その他	70	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	880	1,297

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	4,630	1,650
短期借入金の返済による支出	3,330	1,615
長期借入れによる収入	-	500
長期借入金の返済による支出	21	21
社債の償還による支出	226	226
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	146	169
財務活動によるキャッシュ・フロー	906	118
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	7
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	747	841
現金及び現金同等物の期首残高	3,268	5,570
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,521	1 6,411

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
賞与引当金繰入額	239百万円	250百万円
給与手当	953百万円	1,014百万円
退職給付費用	72百万円	90百万円
役員退職慰労引当金繰入額	10百万円	14百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金	2,812百万円	6,702百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	291百万円	291百万円
現金及び現金同等物	2,521百万円	6,411百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月9日 取締役会	普通株式	利益剰余金	147	20	平成23年3月31日	平成23年6月8日

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年10月27日 取締役会	普通株式	利益剰余金	147	20	平成23年9月30日	平成23年12月5日

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年5月7日 取締役会	普通株式	利益剰余金	170	20	平成24年3月31日	平成24年6月7日

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年10月29日 取締役会	普通株式	利益剰余金	170	20	平成24年9月30日	平成24年12月5日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

当グループは、日用品の企画・製造・販売を主な内容として事業活動を展開しており、「日用雑貨衣料品事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

当グループは、日用品の企画・製造・販売を主な内容として事業活動を展開しており、「日用雑貨衣料品事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	83円69銭	25円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	615	220
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	615	220
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,350	8,500

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成24年10月1日開催の取締役会において、第三者割当による新株式の発行について決議し、平成24年10月18日に払込が完了いたしました。

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 発行新株式数 | 普通株式 1,000,000株 |
| 2 | 発行価額 | 1株につき 1,038円 |
| 3 | 発行価額の総額 | 1,038,000,000円 |
| 4 | 資本組入額 | 519,000,000円(1株につき 519円) |
| 5 | 申込期間 | 平成24年10月17日(水) |
| 6 | 払込期日 | 平成24年10月18日(木) |
| 7 | 募集又は割当の方法 | 第三者割当による新株式発行 |
| | (割当先) | 有限会社エス・エヌ興産 500,000株
永守 貴樹 500,000株 |
| 8 | 資金の用途 | (1) 海外販売網及び物流網の拡充
(2) 海外生産設備の増設
(3) 国内生産拠点の増強 |

2 【その他】

平成24年10月29日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|------------------------|------------|
| (1) 配当金の総額 | 170百万円 |
| (2) 1株当たりの金額 | 20円 |
| (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成24年12月5日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月8日

レック株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 篠原 孝 広 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅野 裕 史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているレック株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、レック株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成24年10月1日開催の取締役会において、第三者割当による新株式の発行を決議し、平成24年10月18日に払込が完了している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。